

<タイプ1>

- ・偉人の話を聞いてとても感銘を受けた。
- ・私は自分があまり運がいいとは思ってない。自分が不幸である事をすぐに口にしてしまう。だから不幸なのかも。あまり口にしないようにしたい。
- ・正岡子規と夏目漱石が同じ年だったというのに驚きました。率先して調べ、勉強して参ります。
- ・興味を持ち始めたので、自ら調べて参ります。
- ・志賀直哉に興味を持った。自分でも調べたい。
- ・落語の話をしっかり聞いたのは初めてだったので新鮮でした。
- ・ベールースが日米野球で日本を訪れた時の映像が一番印象に残りました。野球が好きで昔の動画などYouTubeで観るのですが、始めてみた動画だったので少し興奮しました。

<タイプ3>

- ・鈴木大拙館が一番印象に残った。
- ・正岡子規が野球の名付け親で野球を愛していたことにとっても驚いた。
- ・伊集院静の正岡子規と夏目漱石の話を聞いて、二人についてもっと詳しく勉強してみたいと思った。
- ・武者小路実篤も夏目漱石も、意外だなと思う面がたくさんあり面白かった。「第百階級」の「秋の夜の会話」がとても面白く感じた。
- ・正岡子規が野球を伝えたり、夏目漱石と深い関係があったことを知った。スポーツや物事には必ず最初元となった人がいてそれを詳しく学ぶ事も大切だという事を今回の講義を通し学べた。

<タイプ4>

- ・武者小路実篤と志賀直哉が90歳まで友としてあり続けたことにお互いの存在の強さを感じました。正岡子規と夏目漱石も、お互いにどんな刺激を与えていたのかが気になる。
- ・西田幾太郎さんの言葉の中の矛盾というキーワードがとても興味深かった。
- ・言葉とはその人が経験した事柄がでる。
- ・中村修二氏「怒り」がモチベーションになるのは理解できる。それに加え、「ジェラシー」や「劣等感」ではどうでしょうか。幸福論について、人の幸福を概論化してしまう事に危機感を感じます。白州次郎をやりませんか。鶴川にゆかりがあり大好きだからです。

<タイプ2>

- ・西田幾太郎の「絶対矛盾的自己同一」という言葉が心に響いた。「過去と未来と現在において互いに否定しあいながらも結びついて現在へと働いていく」今どうするかによって、過去も未来も変わるということです。
- ・西田幾太郎さんの西田哲学にはニーチェ好きの私はとても興味を持ってました。
- ・正岡子規の「死ぬまでひっこむわけにはゆかない」という名言が好きで、尊敬できます。
- ・西田幾太郎の「哲学は自分を否定すること、自己を忘れるのを学ぶことである」という言葉が印象に残った。
- ・数々の偉人達は本当にすごいと思った。
- ・志賀直哉「読んだだけ聞いただけという意味物知りがある。これは知恵にならない」という名言がぐっときました。すごい人をこれからどんどん見て、自分のスキルとしていきたいです。
- ・西田幾太郎さんは自己を否定して自己を忘れることを学ぶのであって無という理論を超えているのではないかと思っています。
- ・私もYouTubeで音楽やスポーツの動画を搜しています。今後の講義で気になった人物に関する動画も探してみようと思いました。
- ・西田幾太郎の自分を無にする哲学というテーマに興味を持った。「哲学は自己を否定すること自己を忘れることを学ぶ」に、難しいことのようにだが何となく納得できた。「善の研究」について少し興味を持った。
- ・西田幾太郎の、自分を無にする方法というのはとても興味があり、本当にできるのか試したくなった。
- ・西田幾太郎の「世界を見ようとするとき、世界もこちらを見えています。「井戸」をのぞくと「井戸」もあなたを見えています。」という言葉が気になった。

<タイプ7>

- ・「人生は楽ではない、そこが面白いとしておく」が印象に残った。
- ・人生において友人とライバルは大切な存在なんだと思った。
- ・哲学は難しく、映像の内容も何を言っているのか分からなかった。
- ・正岡子規が日本野球の原点なんて知らなかった。
- ・様々なジャンルの著名人の生き方、考え方を知り、今後の自分の為吸収していきたい。

<タイプ5>

- ・西田幾太郎さんの矛盾の話は深い話だと思った。
- ・正岡子規の名前は聞いたことがあった。柿の部分で野球のボールと似ている想像はしなかった。武者小路実篤と志賀直哉が同世代で親交を結んでいたのは、とてもびっくりしている。現代の人が出てくる動画を観てとてもその部分は分かり易かった。
- ・西田幾太郎の「世を離れ人を忘れて我はただ己が心の奥底に住む」印象に残った。代表作「善の研究」とはどんなものか気になった。
- ・西田幾太郎の論文を読んでみたい。
- ・志賀直哉が、多くの作家に影響を与えた小説の神様と言われた具体例を教えてください。
- ・西田幾太郎たちの話から、親友、心の友といった存在に助けられていた事から、大学生活や小・中・高に出会った友人たちの中からそういう存在の友人を見つめたいと感じた。
- ・どんなに能力があっても友という存在がなければならぬと思った。
- ・鈴木大拙さんの「年をとらないと分からないことがたくさんある」に説得力があった。現代の人物を出してほしい。
- ・YouTubeで偉人が生きていた頃の映像はとても鮮明で面白かった。
- ・西田幾太郎さんの自分自身を忘れる事が学ぶこと、つまり無。物事を行うとき無になれと言いますが、なかなか分かりませんでした。新しいアドバイスになったと思います。

- ・草野心平の「死んだら死んだで生きていこう」という言葉が興味深い。力強く感じる不思議な言葉。
- ・文豪と呼ばれる小説家たちも親近感を覚えた。武者小路実篤の「天に星 地に花 人に愛」という言葉が素敵だと思った。自分の感じた事や思った事、考えている事を言葉で上手に表現できるようになりたい。正岡子規と夏目漱石の話から、友人という関係の影響や素晴らしさを改めて知ることができた。西田幾太郎の「絶対矛盾的自己同一」という言葉の意味や解釈を自分なりに調べたいと思った。
- ・高村光太郎の、私は自分の彫刻を守るために詩を書いている。というのが良かった。

<タイプ6>

- ・昨日と今日の自分は違う。けれど自分は同じ。
- ・“純粹意識”とても意味が深く難しい言葉だと思った。哲学は難しい。と言う偉人はすごいと実感した。
- ・現代のビジネスに関係する人を紹介してほしい。
- ・話が難しく頭に入りづらかった。就職に関する部門を開き、今役立っていることに驚いた。一人の人の行動が大きな影響を与えている。
- ・講義を聞いて、友人との関係を大切にしなければならないと思った。
- ・正岡子規と夏目漱石が生涯を通じて親友だったとは驚きだった。二人の関係は興味深い。彼らの小説を読んでみた。
- ・鈴木大拙はとてもすごい人だと思った。最終学歴が中卒だということに驚いた。
- ・西田幾太郎の考えに共感を持ち、また違う捉え方もでき、とても有意義な時間でした。
- ・天才と呼ばれた偉人も挫折をして苦しんでいた。
- ・偉人の動画を観ると普通に勉強するよりも頭に入ってくるし分かり易いのでとても良いです。
- ・小説家は知らない人が多かった。調べてみる。
- ・偉人の言葉に感化された。
- ・難しい言葉が多かった。昔の人の考えに興味を持った。
- ・自己否定することと「自己を忘れるということとはとても大変な事でありとても大事なことだ」と思った。
- ・偉人が動いている姿が新鮮だった。志賀直哉が生涯創作を続けていることに感銘を受け、私も生涯友と学んでいきたいと思った。西田幾太郎は身に染みるような言葉が多いがその本質を知ることではできていない。哲学するということが奥が深いと思った。
- ・とても新鮮。空調が効きすぎて寒かった。

<タイプ9>

- ・武者小路実篤の記念館が調布市にあるとのことなので、是非行ってみたい。
- ・正岡子規の書いた詩が的確ですごい。自分の思いをエッセイにして書き出していることは素晴らしく、見る者を納得させる力がつくだろうと感じた。
- ・私は杉田ゼミでレジャー(余暇)の事を研究しているので漱石のいう「道楽と職業」の話は興味深いものだった。
- ・正岡子規は、日本に野球を広めるために色々なことをしてきて、野球が浸透し、すごいと思った。

<タイプ8>

- ・双葉山が明治生まれで最後の横綱であったことを初めて知った。西田幾太郎の無の哲人を聞いて、考えが変わった気がする。
- ・昨日の自分と今日の自分は違う。ただ自分は一貫して同じだ。すごく印象に残った。分かるようで分からない、好きです。
- ・西田幾太郎「絶対矛盾的自己同一」という西田哲学の哲理が有名と知って興味が湧いた。
- ・哲学者の言葉や考え方をすることで、自分の人生をより深められると感じる。
- ・夏目漱石と正岡子規の交流を知り驚いた。
- ・歴史から学ぶことは多い。常に勉強をしようと思った。
- ・今までと考え方が変わった。漱石の立派さに気づいた。西田幾太郎は、学生時代はあまり目立ってなかったが、日本のことを良く、うまく説明できる人だった。
- ・武者小路実篤さんが日記で書いたものは私の印象に残った。
- ・西田幾太郎「禅」+「哲学」=「思想」、人は人、吾は吾なり、とにかくに吾行く道を吾は行くなり。無になるための方法として哲学に目をつけるという着眼点に感心した。
- ・矛盾しながら自己同一を保つのは凄と思う。
- ・いろいろな人の考えは参考にすべきだと感じた。

- ・西田幾太郎「絶対矛盾的自己同一」、無の哲人と言われる西田幾太郎の自分を無にする方法の哲学に非常に興味が湧いた。
- ・知らない人が多かったので、この講義で知識をより広げて行きたいと思った。
- ・アランの幸福論に感銘を受けた。他人に不幸を話さず生きる。
- ・司馬遼太郎は好きな小説家だ。坂の上の雲などよい小説で好きです。
- ・幸福になるから笑うのではなく、笑うから幸福になるという名言を聞き、覚えておきたい。
- ・西田幾太郎の話は、突き抜けた独自の世界観は実に興味深い。「個人というものをのぞいては、何にも創造はできないだから、、、」という言葉は心に残った。
- ・この講義のおかげで歴史や歴史上の人物に興味が出てきた。動画で90分があつという間だった。
- ・次の授業も自分の為になることを学びたい。

<タイプ?>

- ・正岡子規は現代の日本人よりも自由で、人生を必死に全うしようとしていたんだと感じた。
- ・正岡子規と夏目漱石が同い年であると知った。
- ・西田幾太郎さんの動画を観て良かった。理解するまではできなかったが興味を持った。
- ・西田幾太郎の「無の哲学」は興味深かったので、今後自分で調べたい。「世を離れ、人を忘れて我はただ己が心の奥底にすむ」という言葉が心に残った。
- ・西田幾太郎さんから、昨日と今の生活が違っても自身は一緒だということ。
- ・実際の映像にとても刺激を受けた。
- ・「私は幸だから笑うのではなく、笑うから幸になれる」という言葉が心に響いた。
- ・鈴木大拙に興味を持った。不得要領な世界をその世界を成したことが凄と思う。この人は頭が良い。
- ・司馬遼太郎の「竜馬がゆく」が一番好きな作品です。人生を変えた人物の一人です。
- ・「個人というものをのぞいては、何にも創造はできないんだから、、、」西田幾太郎の言葉に共感した。
- ・志賀直哉の「暗夜行路」は日本人なら誰でも知っている日本文学の金字塔です。これから読もうと思う。また、西田幾太郎という哲学者。苦難に遭ったことで心を静めたということがあった。
- ・詩の世界を魅入られるいい授業だった。YouTubeにこんな興味深いものがあるとは思わなかった。次はスクリーンが見やすくなっているといいと思う。
- ・学校や職業に関係なく努力をすれば願いがかなう。
- ・夏目漱石と正岡子規二人の作品を、時代背景など照らし合わせて読んでみたい。
- ・夏目漱石はとても偉大な人だと思った。
- ・技術者も文学など、自分の世界を楽しんでいる。
- ・正岡子規が日本野球の原点だと知らなかった。
- ・物のルーツをたどることの素晴らしさを知り、調べようと思った。
- ・歴史上の人物を学ぶことで、色々な事、良い言葉を知ることができ、知らないのと知っているでは、将来が違ってくると思った。
- ・YouTubeをこんな形で使うのが良いと思った。
- ・西田幾太郎「絶対的矛盾自己同一」共感できた。この講義で「矛盾」に対する価値観が少し変わったように思う。